

松河戸町の沿革

8 十五の森の悲話

(1) 十五の森のお話

昔このあたり一帯は、庄内川の水域で湿田が多く雨期になると毎年のように堤防が決壊し、多くの被害を出していました。

今からおよそ 500 年前の明応 3 年(1494 年)のこと。出水期を迎えた村人達が氏神の境内で相談していた時、一人の占い師が通りかかったので助けを乞うと、占い師は「水神に 15 歳の少女を生けにえとして捧げれば水神の怒りはおさまる」と説きました。そこで村人がくじを引いたところ、時の庄屋に当たり、親子は泣く泣くこれを承諾し、梅雨時に土手に埋められることになりました。少女は白木の箱に入れられ、埋められましたが、地上では娘の鳴らす鐘の音が 7 日 7 晩つづいたといひます。

それから水害もなくなり、平和な村となったということです。この跡を十五の森と呼び、村人達は小祠を建て薬師如来を安置しました。これを江戸時代の中頃に観音寺に移し、毎年命日には供養がなされ、供養の歌・踊りも奉納されて昔をしのんでいます。また、親子地蔵が昭和 44 年 5 月に建立され、そのかたわらには、「十五の森の由来記」が石に刻まれています。



郷土誌かすがい 春日井市教育委員会 春日井市ホームページから

(2) 史跡十五の森

市の史跡（昭和 37 年 11 月 1 日指定）となっている「十五の森」は、中央線勝川駅から南へ 1 キロメートルほどの愛知電機工作所南側駐車場の中にあります。

昔、この辺りは一面水田でした。通称六升池、堤越、十五、砂入などといった庄内川氾濫の跡を示す地名が現在も残っています。

松河戸の観音寺には、この童女の位牌と共に、童女の霊を鎮めるために造った薬師如来の像が祀られています。江戸時代の中頃（1721）この薬師如来の由来について書かれた「十五薬師記」もあります。また、観音寺の門前には、童女と童女の母の霊を慰めるために昭和 44 年 5 月、石の親子地藏尊が地元の有志によって建立されました。

この伝説を親から子へ、子から孫へと語り伝えると共に、童女の霊を祀った薬師如来や地藏尊の参拝を毎月命日に続けておられる方々もあります。

なお、地元には「十五の森」に因んだ「薬師の井」や「塚のくろがねもちの木」などの話も語り継がれています。

齊木秀弘(故人) 松河戸町

十五の森の住所 春日井市松河戸町 4123 番地

(3) 小野小学校のクロガネモチ

小野小学校の運動場に生えているこの木(クロガネモチ)は、もと十五の森にあったもので、1892 年(明治 25 年)に松河戸にできた小野尋常小学校に移植されました。

その後、昭和 4 年になって今のところに学校が建てられると、この木もここに植えかえられました。運動場の南東の隅に植えられましたが、今では運動場の拡張により北東に位置しています。



今も小野小学校の子供たちを見守っているクロガネモチ